

千葉大学における大学院生と若手研究者を対象にした 研究データ管理・公開支援： RDM支援ポータルサイトを中心に

研究データエコシステム東海コンソーシアム第8回セミナー

千葉大学附属図書館 熊崎由衣



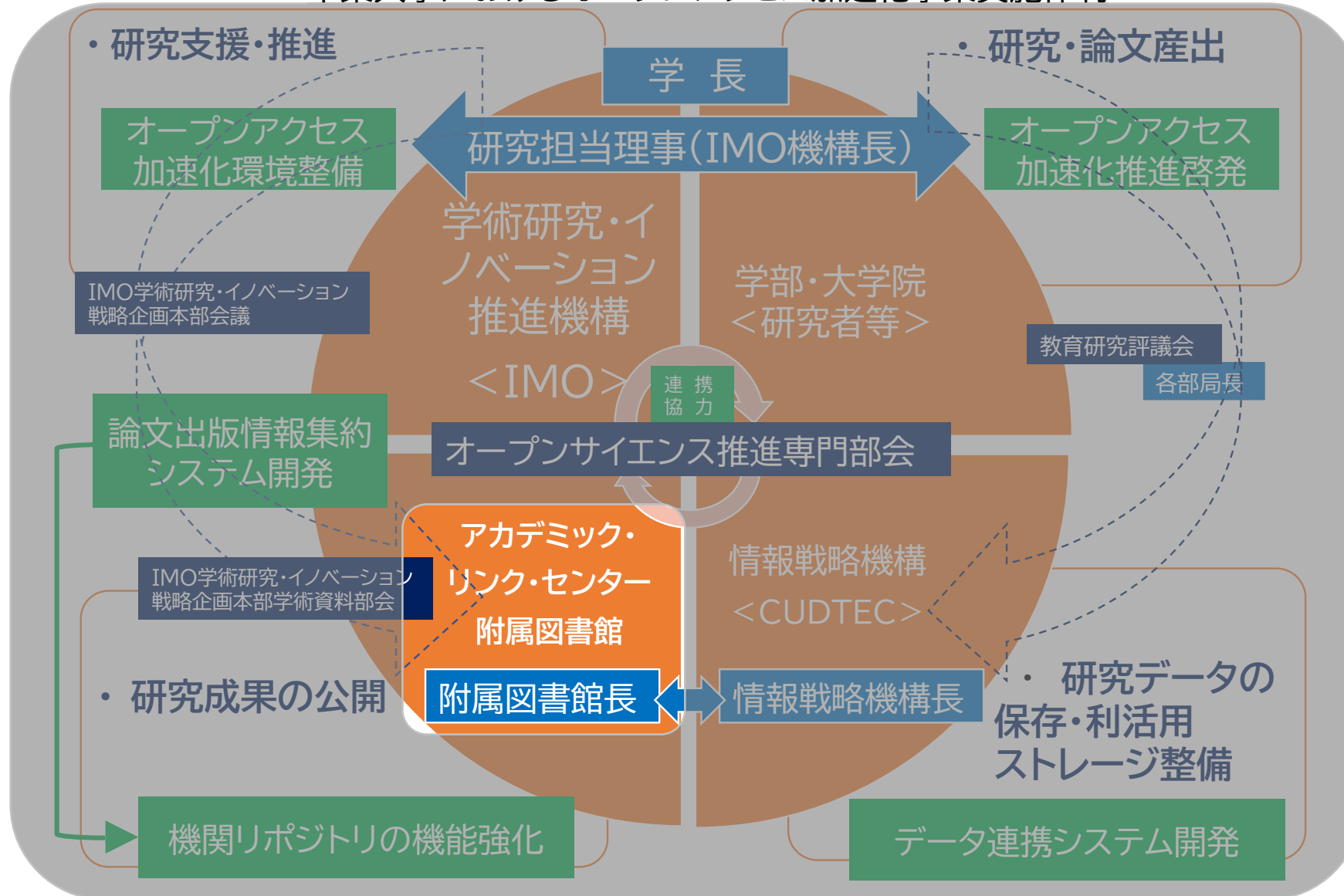
CHIBA UNIVERSITY

Academic Link

千葉大学ALC／附属図書館の概要

- 規模
 - 総合大学：11学部、9大学院
 - 学部生約1万人、大学院生約3千人
- アカデミック・リンク・センター／附属図書館の教育・学習支援
 - コンセプト「アカデミック・リンク」
 - 2011年～学部学生支援：考える学生の創造
 - 2017年～大学院生支援：知のプロフェッショナルの育成
 - これらの実現のためにALC教員、附属図書館職員による教職協働プロジェクトを実施している
 - 年度をこえて継続的にサービスを検討・実施・評価する
 - 基本的に、職員は本務に加えて複数のプロジェクトに参加する

千葉大学におけるオープンアクセス加速化事業実施体制



オープンアクセス加速化のための基盤整備

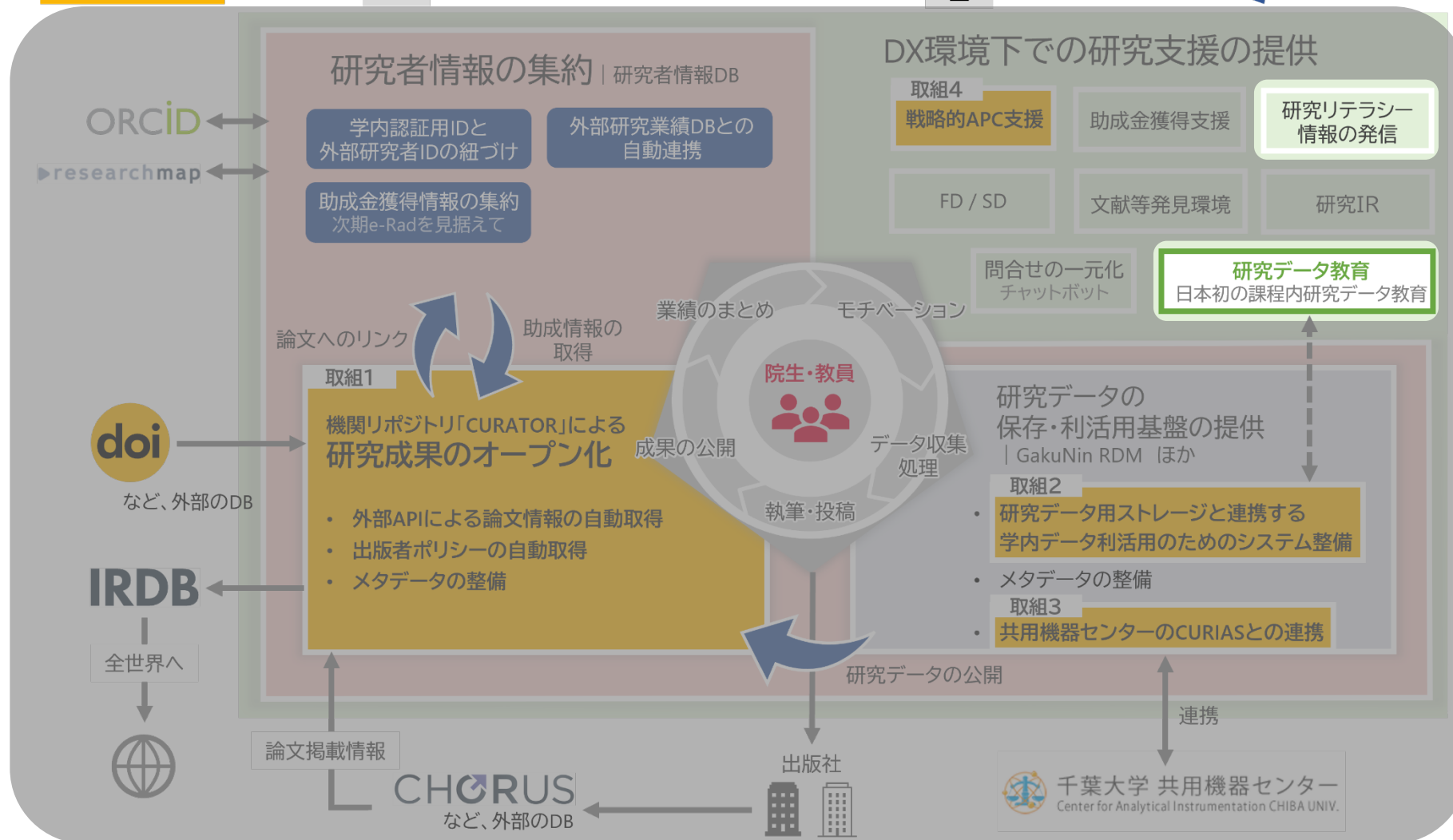
※今回の申請で実現・高度化する部分

メリット
1

研究成果の可視性

メリット
2

研究者の負担



RDM支援ポータルサイトについて

構築の背景

2017

院生支援プログラム
“Encourage YOUR
Research” (EYR!)
開始

→RDM支援教材作成
開始(研究リテラシー
涵養の一環として)

2018

研究者／大学院生
インタビュー実施

2021

院生支援ポータルサイト
“Encourage YOUR
Research Journey!”
(EYRJ!) 公開



2023

千葉大学研究データ
ポリシー策定
大学院共通教育「研
究データの保存・管
理・公開の基礎」開始

→RDMの重要性への認識、
院生に向けたRDM教育
ニーズの高まり
→研究行為に沿った当事者
(院生)視点のRDM教材・
支援の再検討

2024

RDM支援ポータル
サイト公開



RDM支援ポータルサイトの概要



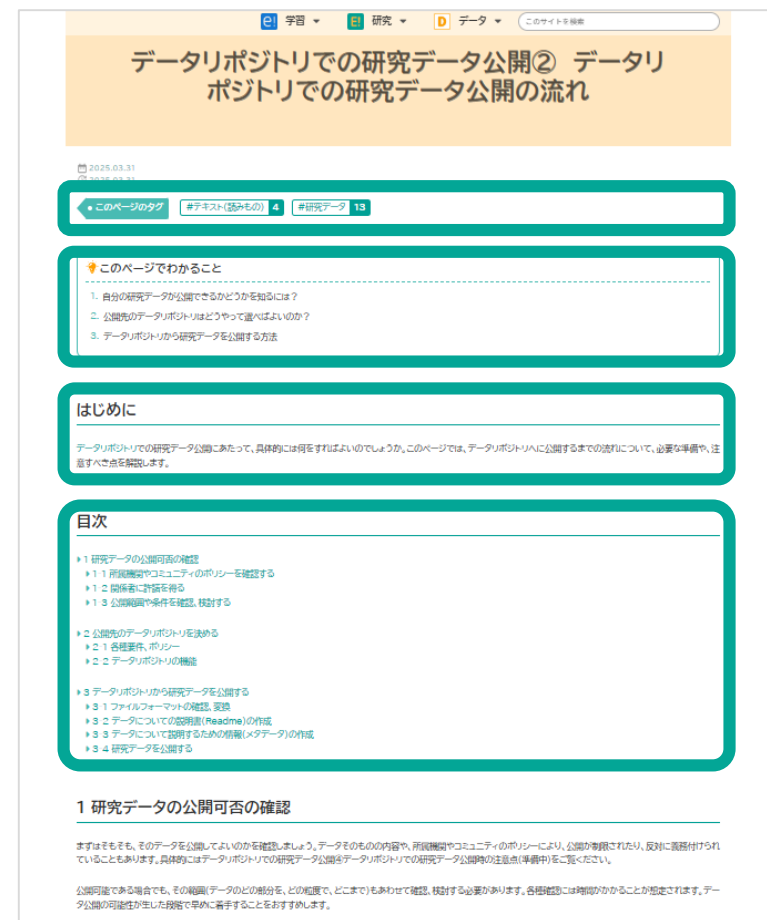
- 名称
 - **研究データ管理・公開支援ポータル**(2025/3/12~)
<https://alc.chiba-u.jp/eyr/rdm.html>
- 狙い
 - RDM に関心を持ちはじめた大学院生、若手研究者にニーズに合った教材や支援リソースを届けること
 - 学内の関係者が学内外のリソースの円滑な利用を可能にすること
- 対象
 - 大学院生、若手研究者
トピックによってはより詳しい利用者像を想定してコンテンツを作成する

特徴1:わかりやすさを重視する(外観)

トップページ



コンテンツ(記事)ページ



特徴Ⅰ：わかりやすさを重視する（記述）

- 取り上げる内容
 - RDMに関する基礎的・汎用的なものとする
- コンテンツ（記事）の基本構成
 - 有用性を記述する：このコンテンツがなぜ必要か、いつ役立つかを冒頭に示す
 - 前提を整理する：テーマを理解するのに必要な概念や用語を整理して全体をイメージしやすくする
 - 文章を構造化する：情報の粒度と記述の流れを揃える。手順に沿って時系列に記述する
 - まとめる：コンテンツのポイントや伝えたいことを端的に述べ、情報の定着を図る

特徴2:研究行為に沿う

- Schonfeld(2018)のResearch Workflowを基本とし、RDM支援ポータルの観点で再編集
- 研究データを中心とし、研究行為に関する包括的な情報を提供

カテゴリ	0.研究データの基礎	1.最新動向の調査 (Current Awareness)	2.研究計画 (Research Design)	3.研究助成 (Funding)	4.共同研究 (Research Collaboration)	5.安全衛生と管理 (Lab Safety & Management)	6.実験/調査計画 (Experiment Design)
内容	RDMの基礎的事項	研究データ関連の最新情報	研究計画やDMPの作成	助成・関連する要求事項	契約や成果の取り扱い	倫理、リスク、管理	計画時の留意点等
カテゴリ	7.データ収集 (Data Collection)	8.分析 (Analysis)	9.データ共有 (Sharing)	10.論文執筆 (Writing)	11.論文投稿 (Submissionと Review & Selection)	12.研究成果の公開 (Publication)	13.業績の公開 (Showcasingと Assessment)
内容	データの検索～組織化、ツール	前処理、分析環境等	匿名化、廃棄、共有方法等	論文執筆、文献の引用等	公開可否判断や留意点	データの公開や権利等	業績の普及、実装の展開等

※()内はResearch Workflowで使用されている名称

Schonfeld, Roger C. “Big Deal: Should Universities Outsource More Core Research Infrastructure?”. Ithaka S+R. 2018-01-04. <https://doi.org/10.18665/sr.306032>, (accessed 2025-08-26)

特徴2:研究行為に沿う

- Schonfeld
ポータル
- 研究データ

カテゴリー	0.研究データの基礎
内容	RDMの基礎的事項
カテゴリー	7.データ収集 (Data Collection)
内容	データの検索～ 組織化、ツール

Schonfeld, Roger C. “B”
<https://doi.org/10.186>

0



研究データの基礎

1



最新動向の調査

2



研究計画

3



研究助成

4



共同研究

5



安全衛生と管理

6



実験／調査計画

7



データ収集

8



分析

9



データ共有

10



論文執筆

11



論文投稿

12



研究成果の公開

13



業績の公開

とし、RDM支援

情報を提供

管理 & nt)	6.実験／調査計画 (Experiment Design)
管理	計画時の留意点等
の公開 n)	13.業績の公開 (Showcasingと Assessment)
間や	業績の普及、 実装の展開等

naka S+R. 2018-01-04.

特徴3:ウェブサイト形式で使いやすくする

- ポータルサイト内で、求める情報を発見しやすい
- 検索エンジンから見つけやすい（ポータルを知らなくても）
- 時間や場所の制約なく利用できる
- 端末に依存せず利用できる



大学院生・若手研究者の視点を意識する

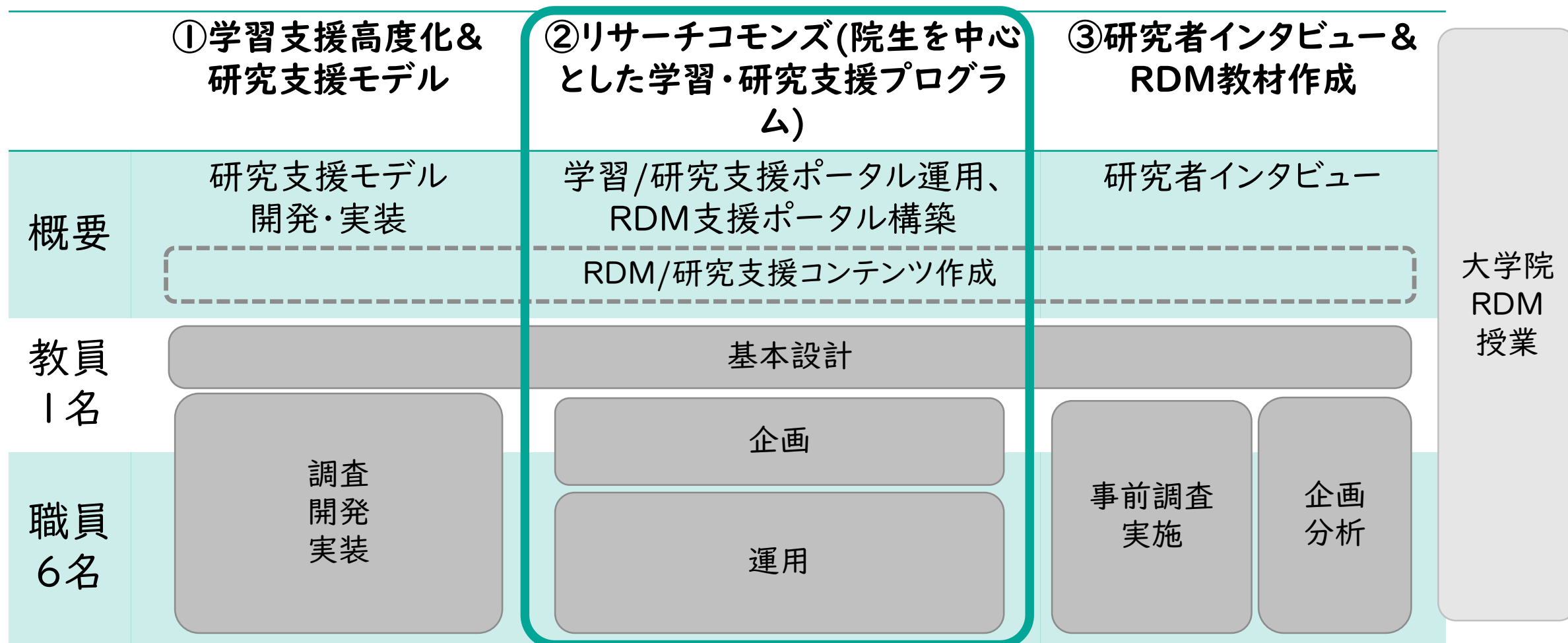
- 有用性を一見して把握できる
- (大学での) 研究行為に沿う
 - 研究リテラシーの一環としてのRDM
- 学術情報流通の変容を踏まえる
 - 大学院生・若手研究者の直面する(であろう)変化
 - 研究者としての活動初期から状況を把握
 - オープンサイエンス時代に活動する研究者としての知識醸成に貢献

構築と運用の体制

構築と運用の体制

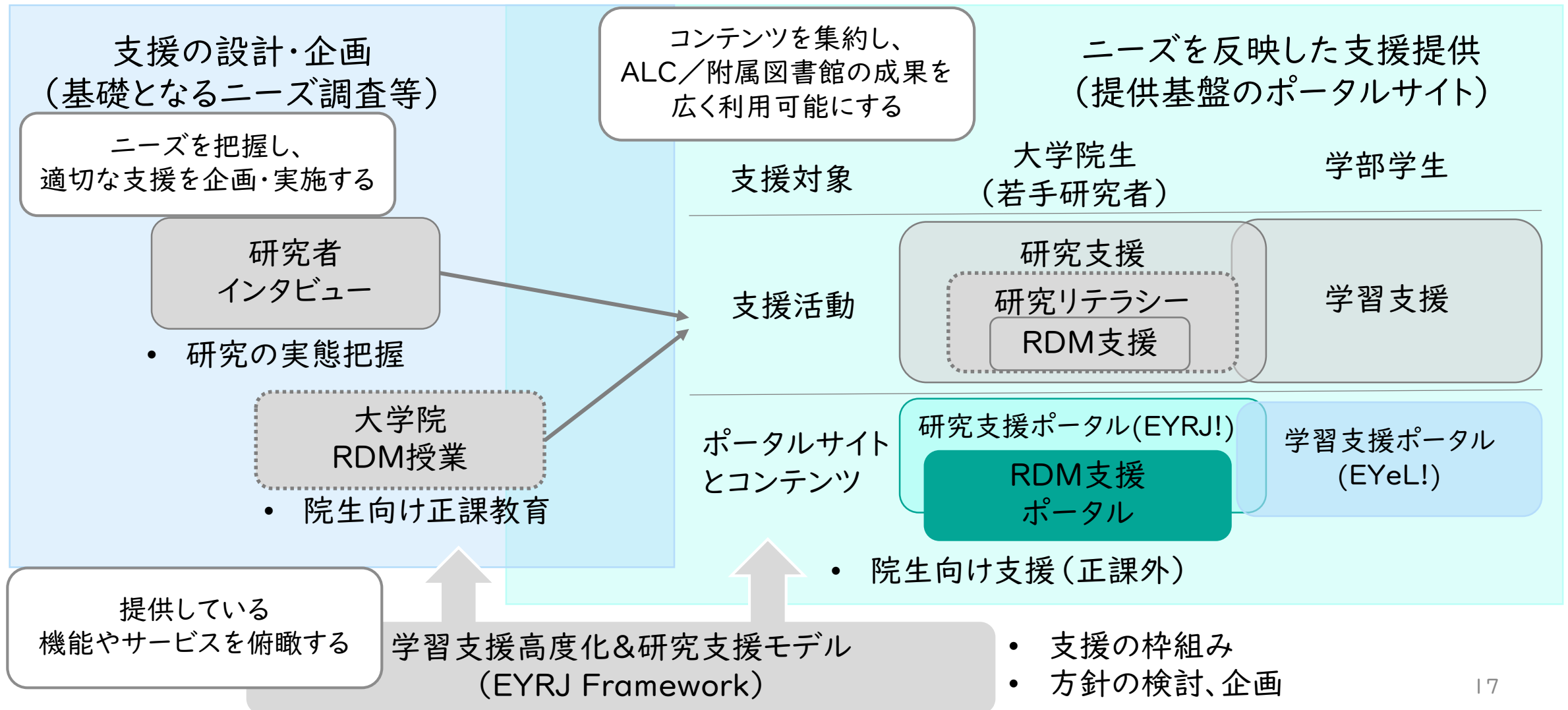
- アカデミック・リンク・センター／附属図書館の**教職協働プロジェクト**により構築・運用
- ポータルサイト構築
 - 教員による基本設計、教職員で企画・運用
- コンテンツ作成
 - 情報収集して書きおろし／既存教材の編集等により作成
 - **職員1人が1記事を担当し、メンバーの教職員でコメントし合う**（並行して作成）
 - 内容に応じて本プロジェクト担当以外の教員からもコメントやレビューを受ける

RDM／研究支援に関する教職協働プロジェクト



月2回の打ち合わせ + 日常的にGoogleWorkspace(主にChat) でタスクを進める

RDM／研究支援に関するプロジェクトの関係



まとめと展望

- OA加速化事業により、RDM支援ポータルサイトを構築
 - 研究リテラシー涵養の一環としてRDM支援をおこなう
 - 大学院生・若手研究者の視点に立つことを意識して支援を提供する
- 今後の展望
 - 質的評価等を実施する
 - 大学院生からのレビュー、大学院生へのインタビュー
 - 一層院生のニーズにあった支援・コンテンツに更新・拡充していく
 - 学内外に積極的な普及活動を実施する
 - アカデミック・リンク・センター／附属図書館は正課教育と正課外支援の両輪でRDM支援をおこなう

関連する報告

- RDM支援ポータルサイトについて
 - 小林裕太, 熊崎由衣, 國本千裕. 千葉大学におけるRDM支援ポータルサイトの構築: 大学院生・若手研究者を対象としたウェブサイト形式のRDM教材提供. 情報の科学と技術. 2025, 75(6), p.283-288.
https://doi.org/10.18919/jkg.75.6_283. (accessed 2025-08-26)
- RDM／研究支援について
 - 熊崎由衣, 國本千裕. “チームで取り組む研究データ管理支援: 千葉大学ALC/附属図書館のプロジェクトと人材育成”. 2024年度RDUF公開シンポジウム. 2024. <https://doi.org/10.20776/900122772>. (accessed 2025-08-26)
 - 熊崎由衣, 國本千裕. “千葉大学における研究データ管理教育に関する報告”. 2023年度RDUF公開シンポジウム. 2023. <https://doi.org/10.20776/900122771>. (accessed 2025-08-26)
- OA加速化事業について
 - 小林裕太. “CURATORにおける即時OA化政策への取り組み”. JST/CHORUS FORUM. 2024.
<https://www.chorusaccess.org/wp-content/uploads/Kobayashi-JSTCHORUS-Forum-Nov-2024.pdf>. (accessed 2025-08-26)